

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

○言語活動の充実を図り、児童・生徒が思いや考えを表現できる授業の実践
 ○認め合い、伝え合い、学び合う授業の実践

牟岐小学校
「学力向上実行プラン」

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 森 真美	委員 校長 竹島 稔 教頭 近藤 憲市 教務主任 浅田 清子 研修主任 岸本 直子
-----------------	---

校長

竹島 稔

【小中連携または中高連携における共通の取組】

授業の中で一時間に一回以上、自分の考えを整理し、伝え合う場を設定したり時間を確保したりする。

【各校の取組状況の把握について】

保・小・中合同で、研究授業や授業研究会を行う。

○次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○基礎的な計算ができたり、与えられた課題に真面目に取り組んだりすることができる児童が多い。 ●文章を読み取ることが苦手である。また、身に付けた知識や技能を言語化することが困難な児童が多い。	・児童一人一人が、自分の思いや考えを持つことができる。 ・文章を整理しながら読み取ることができる。 ・学んだことを他の場面でも応用して活用することができる。	・パターンや記憶の学習に止めず、自分の思いや考えをもつ場を設定したり時間を確保したりする。 ・毎日の読書時間の確保し、新聞を読む時間を設けるなど読書活動の充実を図る。	・授業や全校集会などで、ふり返りの時間を設け、自分の思いや考えを伝える。	・朝の活動「ぐんぐんタイム」に新聞を読み、要約したり感想を書いたりする時間を位置づけ、継続することにより、作文の文字量が増えた。 ・冬休みの新聞感想文の課題では、内容をしっかりと読み取り、自分の感想を持つことができる児童が増えた。 ・学習アンケートで、約80%の児童が、自分の思いや考えを持つことができたと答えた。	・学校全体で共通理解した取り組みを発達段階に応じて確実に実施していく。 ・設定された時間だけでなく、読書する習慣を身につけることができるようにする。 ・読書を楽しむことができる児童を育てるための方策を考え、実践する。 ・ふり返りを大切にし、知識の更新が実感できる授業改善を行う。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○音読集会など全校集会の感想発表の場面で、自分の考えを発表しようとする児童が増えてきている。 ●発表の内容が似ていることが多く、互いの思いや考えを交流し、考えを深めることが難しい。	・学級でのペア学習やグループ学習の中で、全員が自分の思いや考えを伝えることができる。 ・互いの意見を比較したり関連付けたりしながら聞き、考えを深め合うことができる。	・ペア学習やグループ活動を増やしたり、ICT機器等を活用したりして思いや考えを交流する場面を設定する。 ・話し合い活動において、意図的に合意形成や自己決定の場面を増やす。	・めあてを明確に示し、考える観点を伝える。 ・ICTを活用し、児童相互の思いや考えを交流する機会を増やす。	・学習アンケートでは、約80%の児童が、ペアやグループの中で自分の思いや考えを伝えることができた。また、友だちの思いや考えを聞こうとすることができた。また、昨年度より約10%の上昇が見られた。 ・ICTを活用して互いの思いや考えを共有したり交流したりする場面が増えた。	・自分の思いや考えを表現する仕方を広げるための具体的方策について考え、学校全体で取り組む。 ・自分と友だちの思いや考えを比べたり関連付けて考えたりするための手立てを考え、日々の授業の中で継続して実践する。 ・安心して発言できるあたたかい雰囲気作りをし、伝える意欲を高める。 ・タブレットを効果的に活用する。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○興味や関心があることを、自分で調べることができる児童が多い。 ●自ら課題を見つけて、学習に取り組むことが苦手である。	・失敗を恐れず、何事にも挑戦しようとするすることができる。 ・めあてを持って進んで取り組むことができる。 ・課題解決のために、協働しながら取り組むことができる。	・教師と児童、児童相互が認め合い、安心して過ごせる居場所づくりを行う。 ・結果のみに囚われず、過程を大切に、具体的に褒める。 ・ふり返りの時間を充実させ、次時の学習に生かす。	・休み時間はしっかり遊ぶ。 ・児童が考え、行動する機会を大切にする。	・体験活動を大切にしたり、教師も含め全員外に出て遊ぶ時間を設けたりし、仲間とともに楽しむ経験を積み、つながりを深めた。 ・異学年集団活動の中で、児童が自ら考え行動する機会を設けることで、互いに話し合ったりかわり合ったりし、主体的に行動することが増えた。	・児童が自ら考え、主体的に取り組む場面を計画的に設ける。 ・授業形態を工夫し、日々の授業の中で、自ら考える時間を確保したり児童間で意見を交換したりすることを大切にする。

令和5年度 学力向上ロードマップ

